




女 巫 之 天 縛 淫
編 音 天 縛 淫



まだ■■■の頃
私が見た光景・・・




その光景の記憶は
今も尚鮮明に
私の脳裏に焼きついている




いつも凜としていた母が
私に見せたこと無い姿

異形のモノに蹂躞され
恥ずかしい嬌声をあげながら
身体をよがらせる姿・・・



後ろから異形のモノに吹き飛ばされ
動く事の出来ない父が必死に
私に逃げろと言っていたが



私は蹂躞される母から
目を逸らす事が出来なかった・・・

夜間注意！

女性が行方不明になる事件が多発しています
全力で行方を追っていますが未だに原因は解って
外を出歩く時はなるべく人目のある場所を選び
夜間は外出は控えるようにお願いします

この人達を探しています！

※見かけたという方は警察にご一報をお願いい

・米町在住 来栖 真奈美さん（21）

空篠村・・・今は合併して空篠町だったわね
町の掲示板が例の件に関するものばかり
ここが噂の「神隠し」が多発している
町であつてみたいね・・・

一年前からこの町で度々起こる
若い女性の消失事件・・・
警察の他に私達も結構な人数が動因されたけど
一年経った今も原因は解らずじまい



家族が警察に
何度も訴えかけてたけど
警察もお手あげ状態
まさに現在の神隠し事件・・・

こやないかと色々言われてたけ

一人目の行方不明者が出たとき
事件の取材をしていた
同業者の若い子が
この町で行方不明になったから
同僚に最初私がこの事件を
取材したいって言った時
やめとけって言われたけど

この業界で
出世しようと思うなら
こういう危なそうなネタを
モノにしなきゃねえ・・・
上司はこの事件の
取材乗り気だったし
今がチャンスなのよ！

ジャーナリスト
高藤 恵美 (たかとう めぐみ)

学生服・・・
この町に住んでる
子かしら・・・？

ねえちょっと！
聞きたいことがあるんだけど
いいかしら！





ちよつと聞きたい事があるんだけどさ
今時間大丈夫かなー？

・・・なんででしょうか？

私この事件について調べてるんだけどさ
貴方はこの事件についてどう思ってる？

空路町で行方不明
一年経った今も捜査難航

この事件で失踪した人は全員が貴方みたいなら若い女性ばかりだから同じ女性の意見とか感想を聞いてみたくて・・・



え？

「また」か・・・



ああ！もし失踪した人の中に
知人が近い人がいたら
是非お話を・・・



知人はいませんし
この事件には関心ありません

そもそも警察でもない人が
あまり首を突っ込みすぎるのは
よくないと思いますよ？



何あの子？
最近の子って本当
愛想がないわねえ・・・



あ！ちよっと！

それでは
私は急いでいるので

篝神社

・ ・ ・ 何も誕生日を迎えた
その日から始めなくて
いいのではないか

篝 天音 (かがり あまね)

覚悟なら十歳になる前から
既に出来ています父さん

「力」が適正に達したとはいえ
お前はまだ十歳になったばかりだぞ
まだ一族の宿命を背負うには・ ・ ・

・ ・ ・ それに封印の力も
もう限界なのも知っています

篝神社現神主
篝 雅仁 (かがり まさひと)

封印が弱まる一方
行方不明になった人たちの件で
この町以外からも人がたくさん
やってくるようになりました

今日もまた
ジャーナリストの方が
私に事件の事を
聞いてきました・・・

このままでは
アレの存在が人々に
知れ渡ってしまいます

しかし・・・
もしお前まで
母さんのように・・・

・・・本来ならば
母さんが消えたあの時
私が次の巫女として
役目を継ぐべきだった・・・

でも十■だった私の身体では
何もかもが不十分だった！
父さんの言うように十■になるまで
アレが現世に這い出たのを察しても
見てみぬふりをするしかなかった・・・！！

私はもう
見て見ぬふりをするのは
嫌です・・・！！



天音……

鏡石は限界だ
新しい巫女が
すぐに必要なのは
確かだよ

しかし義母さん
もしもの事があつたら
巫女を継げる者が
絶えてしまいます！

このままでは
鏡石の封印は完全に解かれ
アレはこの地だけではなく
全国へと拡散してしまう



……！
どうやらアレが新しい
獲物を見つけたようだね



そうなってしまうたら
我らだけではもう
どうすることも……

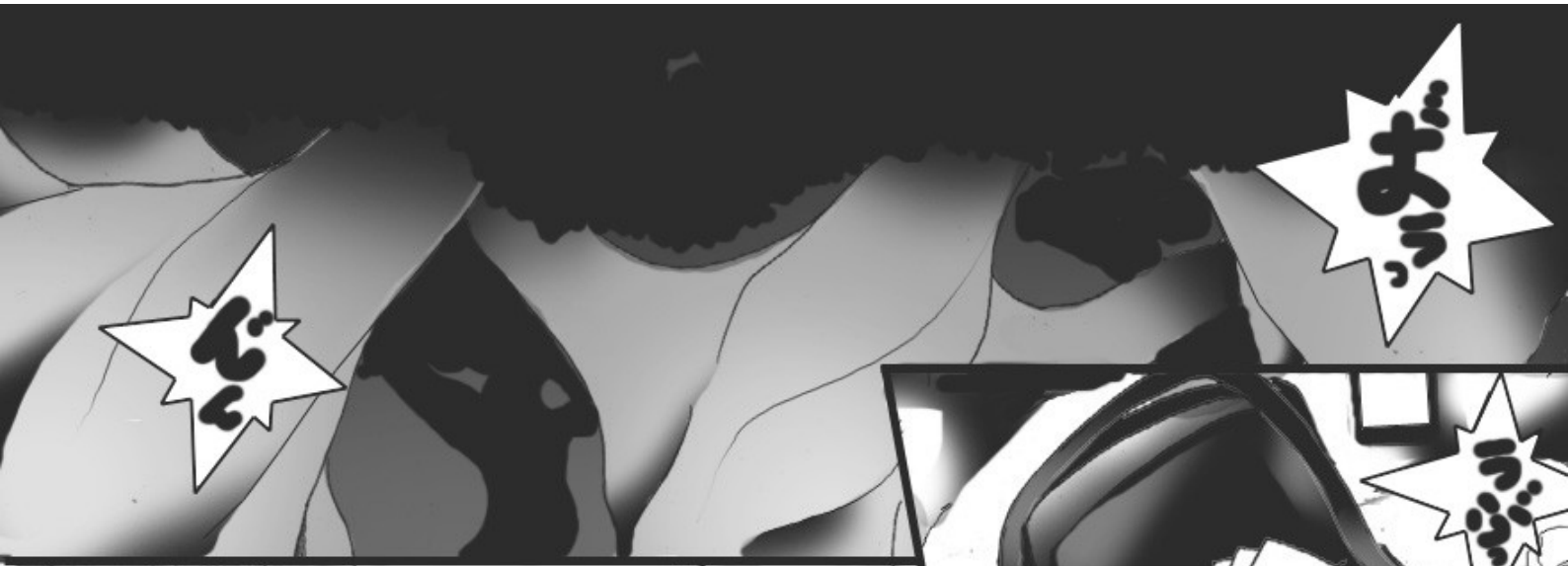


生きていく限りずっと
縛られ続けるのだろうな
この「呪い」とも言える
生まれ持った力に……

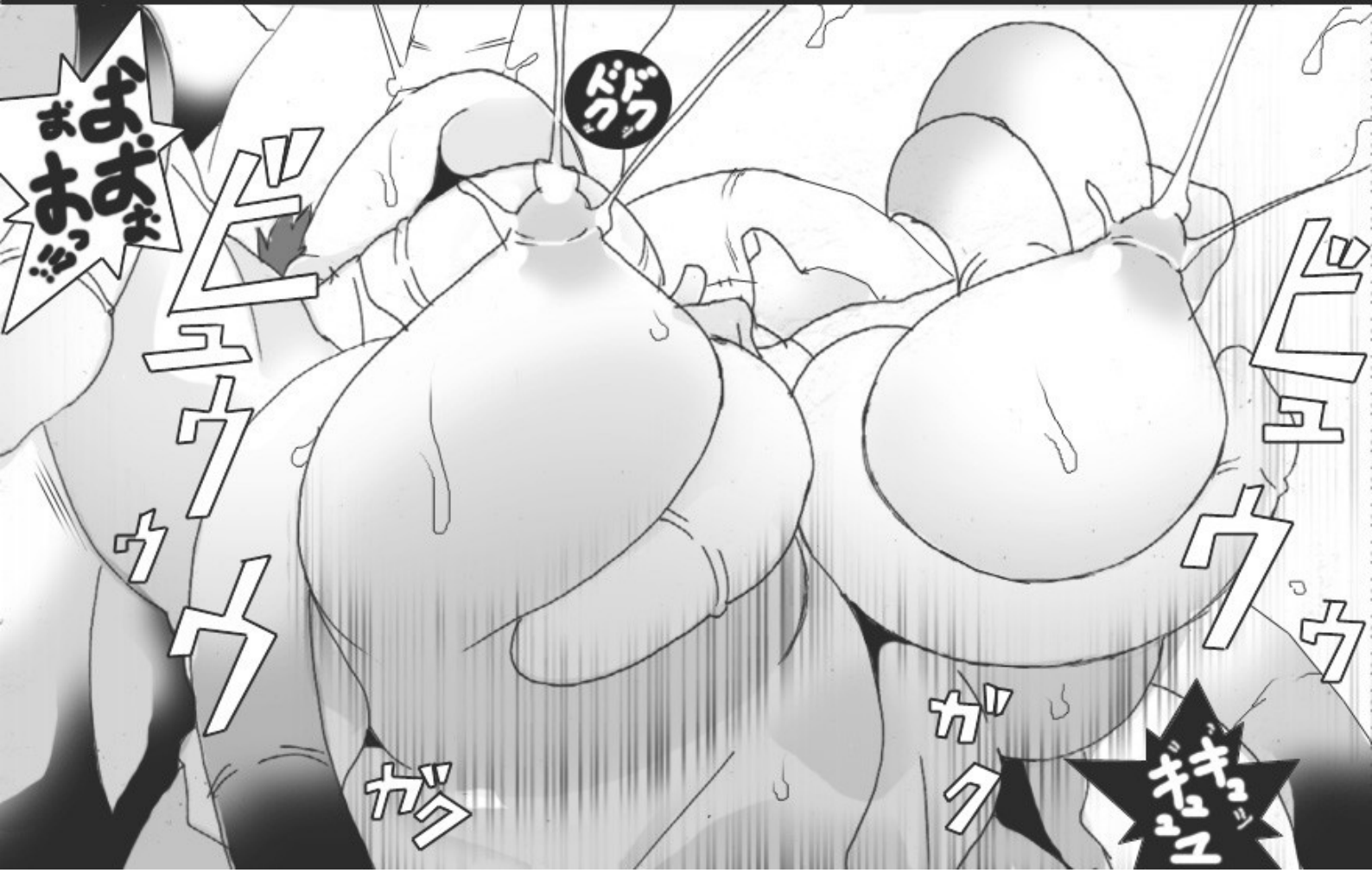
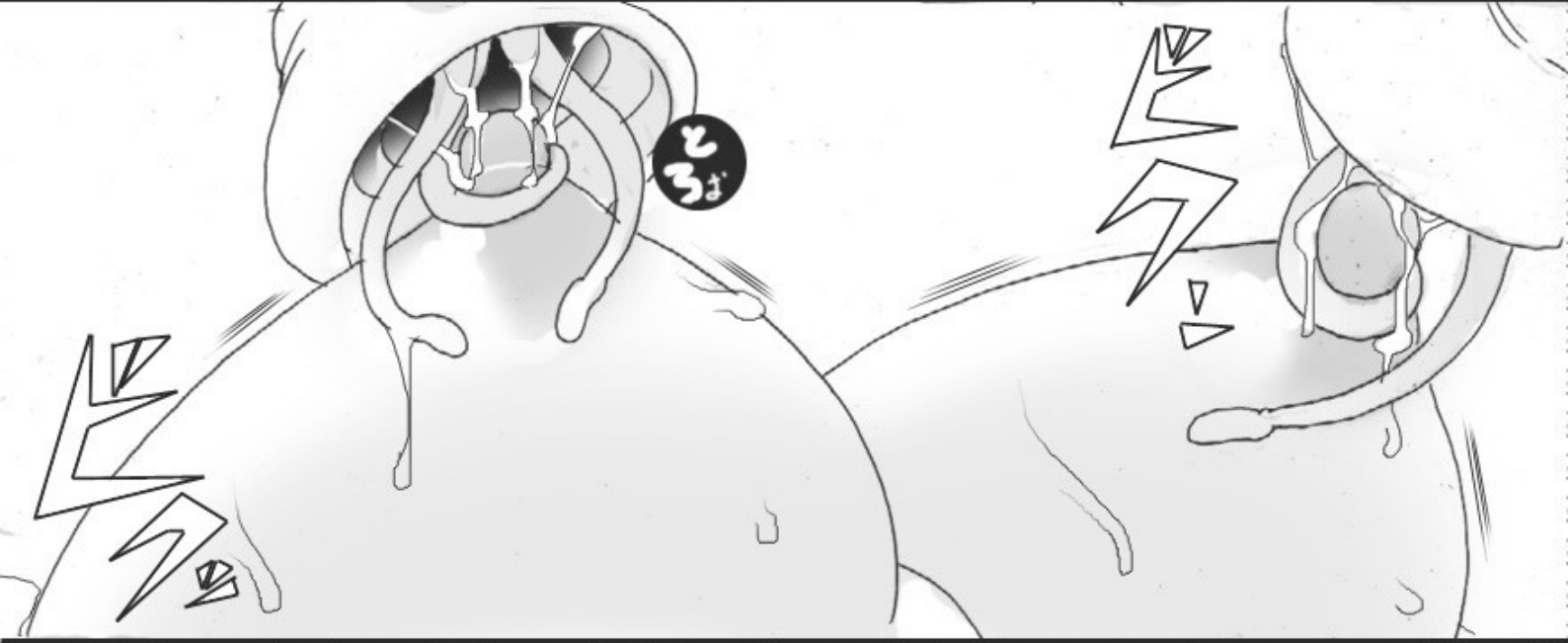


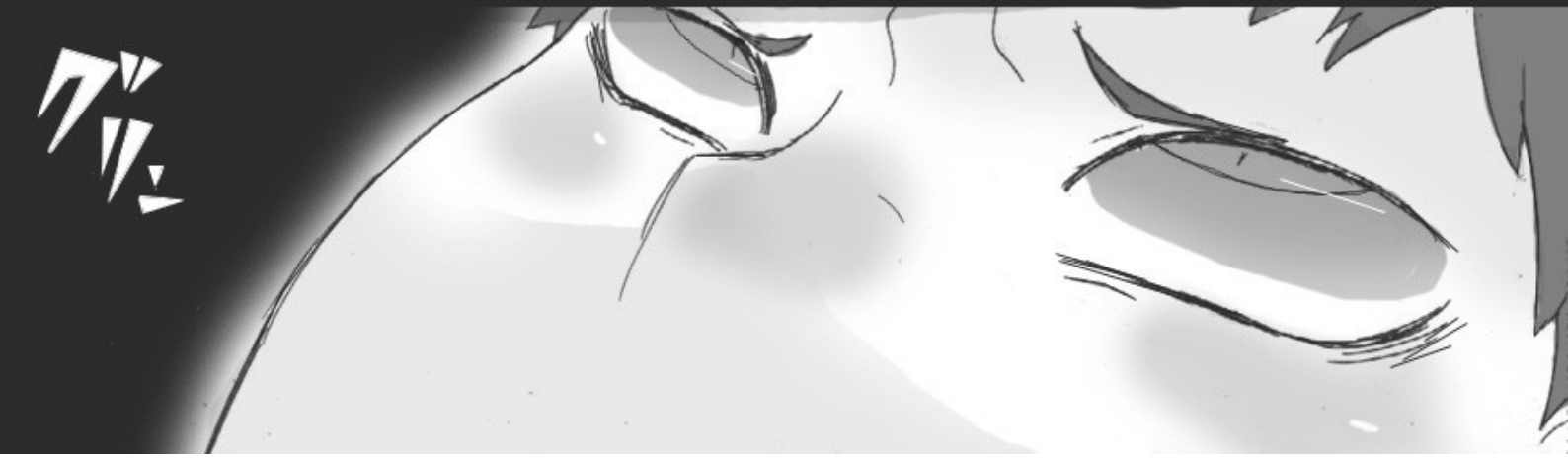
まったく……
力が衰え巫女の役目を終えた私も
アレの気配だけは今でも
はっきりと察する事が出来る

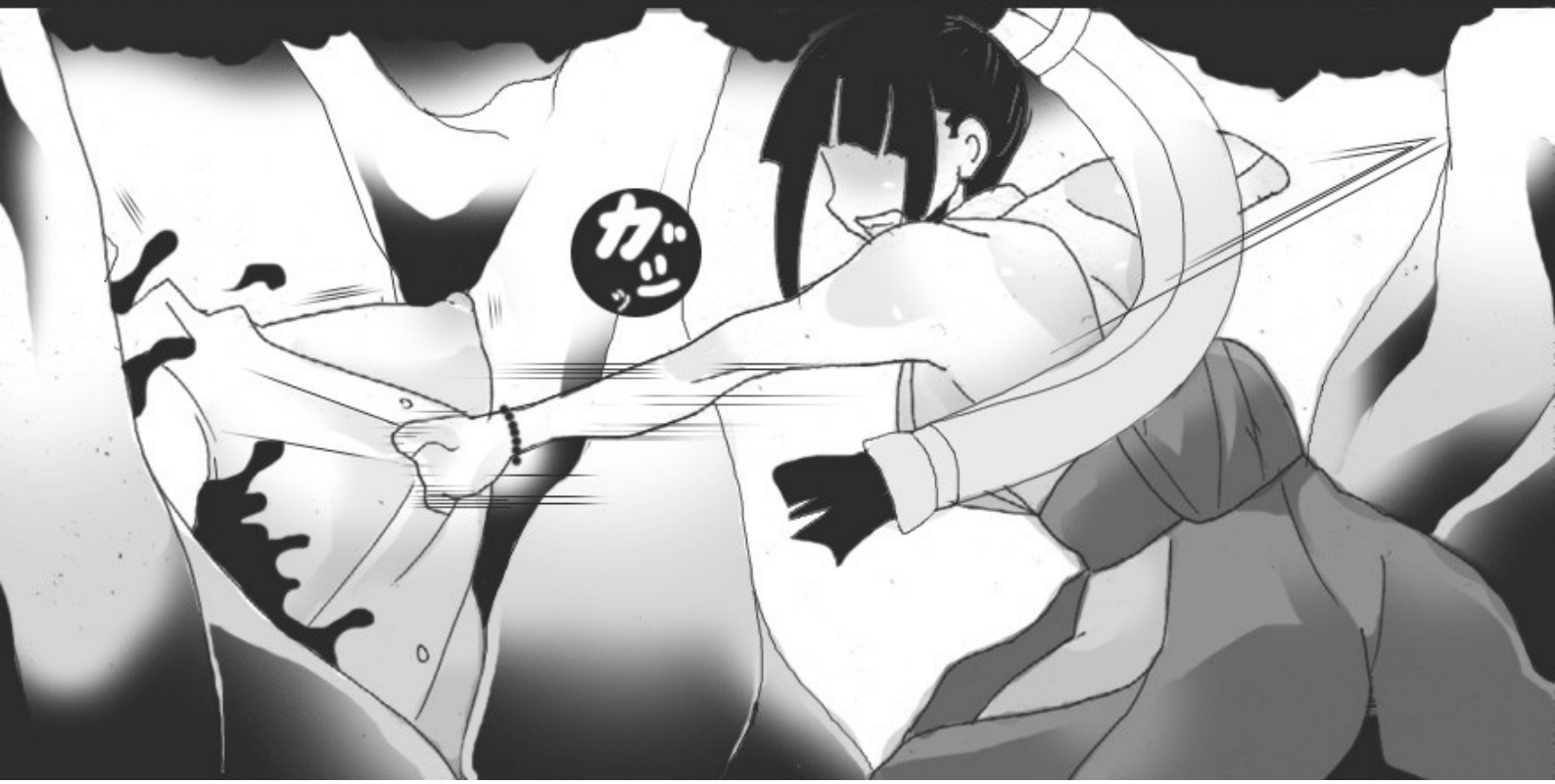
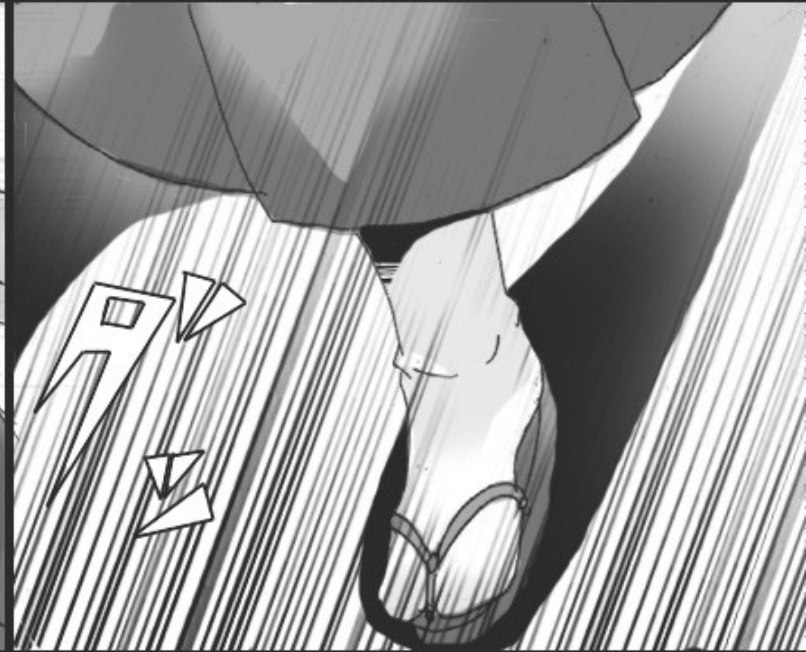
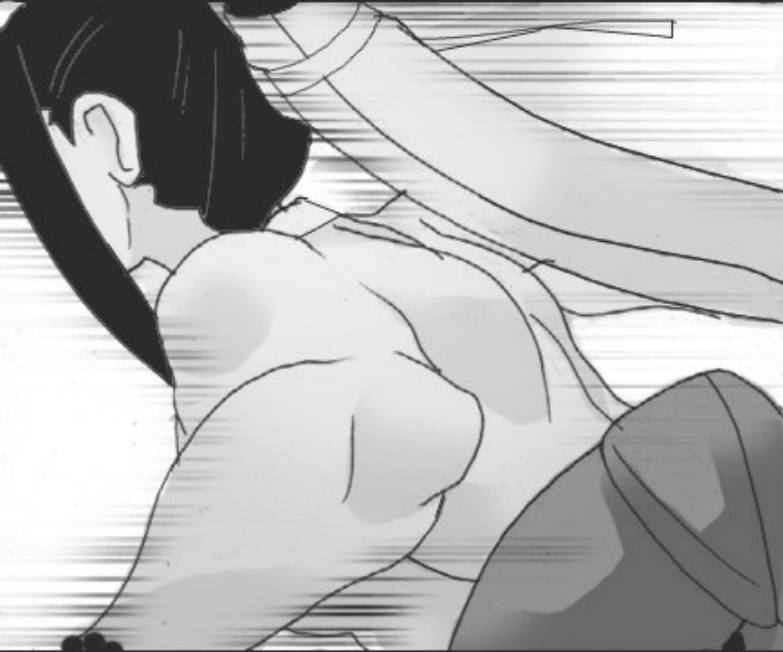
先々代巫女
篝 紗枝 (かがり さえ)



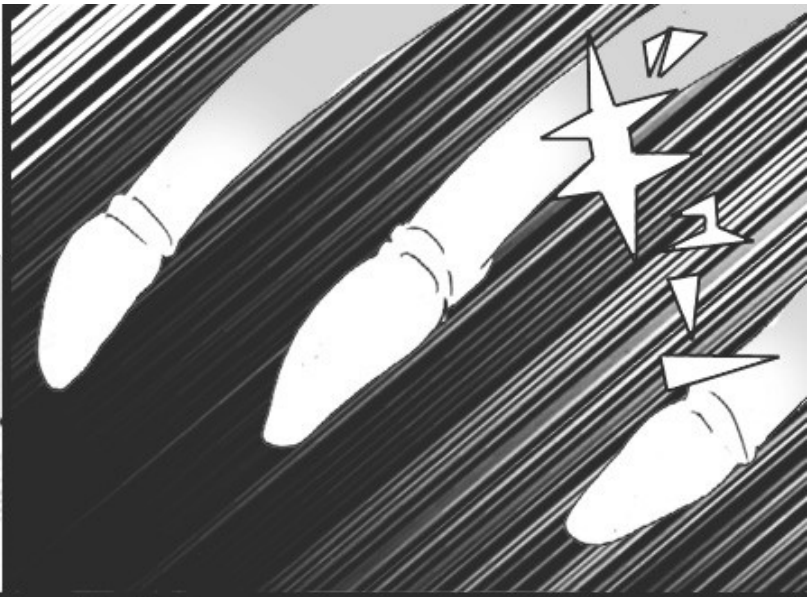










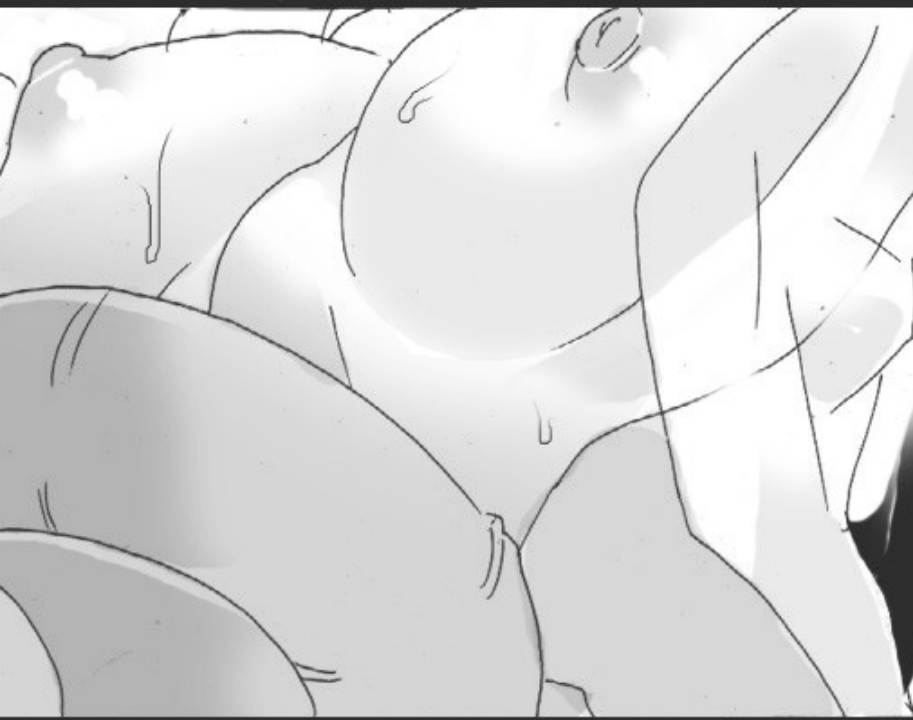




雑霊の類とは
まるで力が違う！



祓いの術が
まったく通じない！



そ、その人を
離さない！
くっ……！！

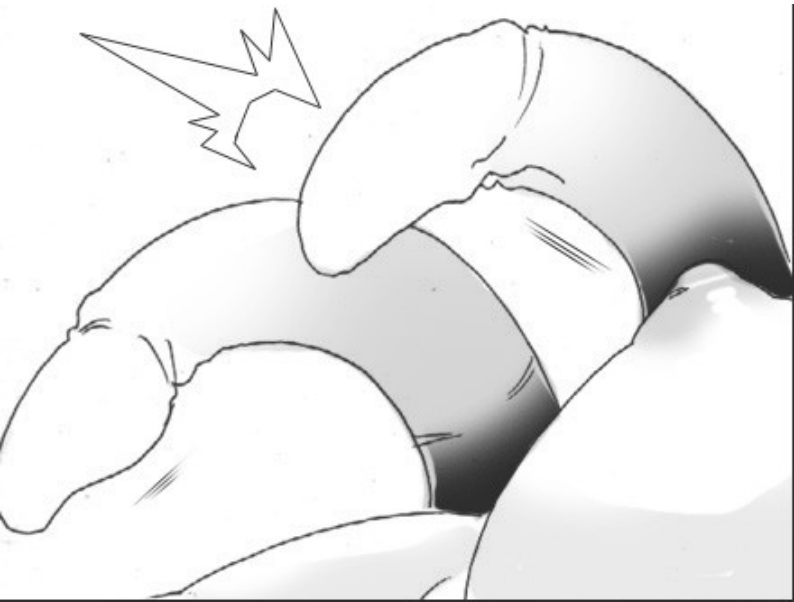


やはりコレを退けるには
この方法しか……

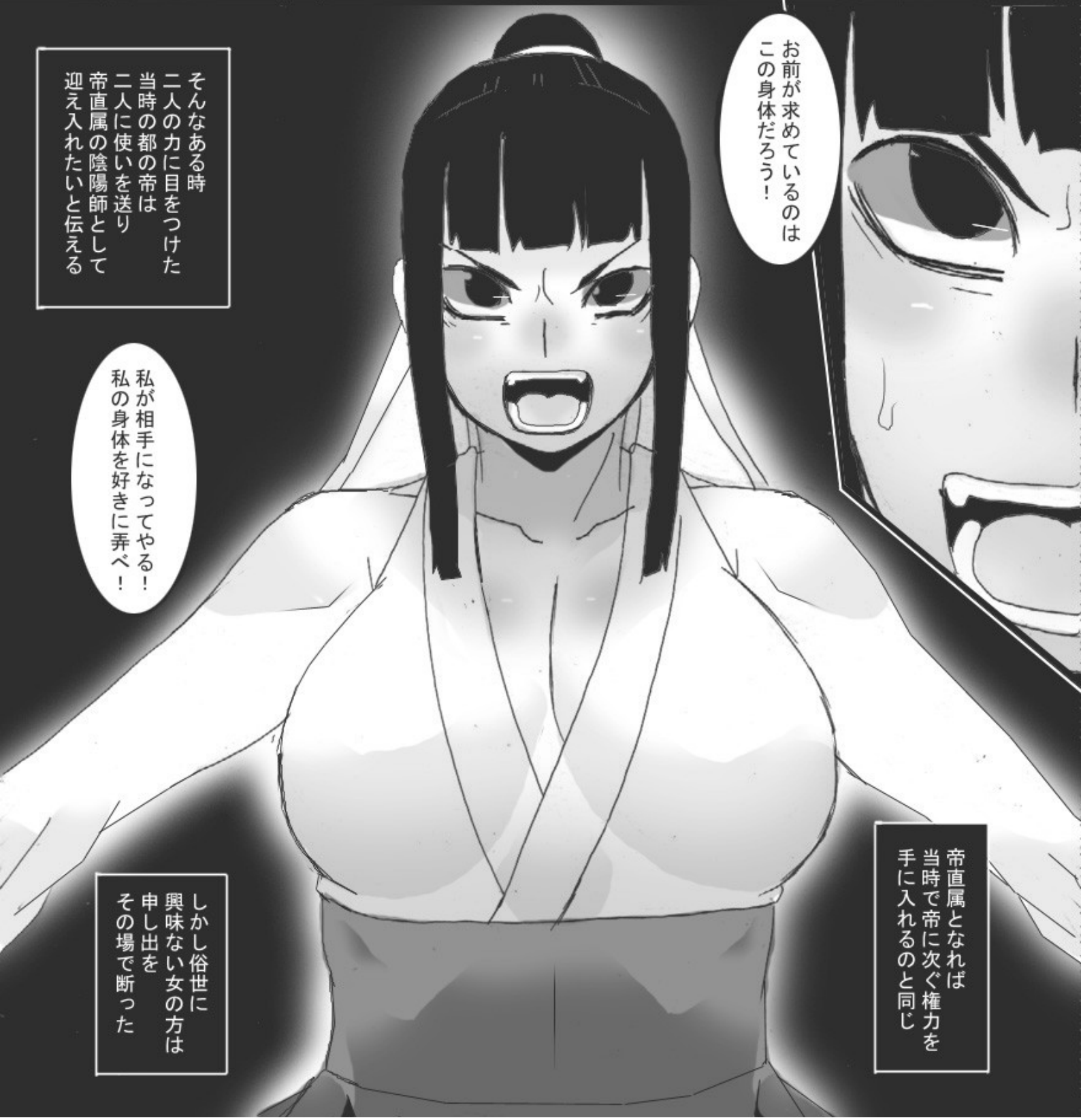
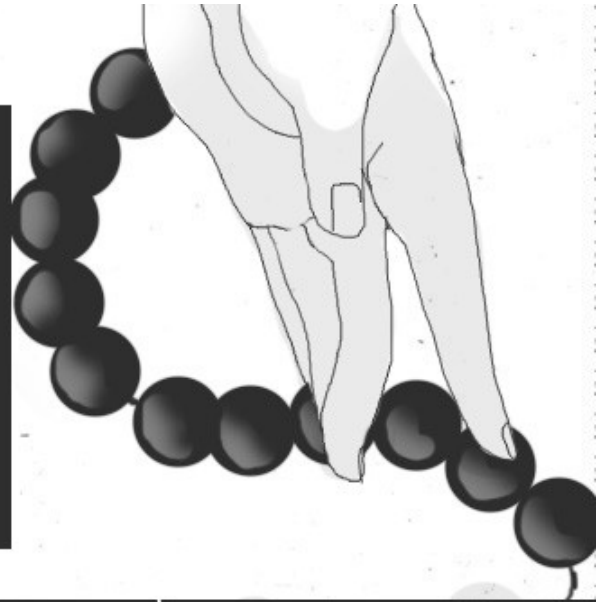


もう私の目の前で
連れて行かせはしない！

その昔
今よりも霊的な力が強く
人々にとって
身近なものだった時代
二人の強力な霊力を持った
男女がいた



二人は陰陽師としてその力で
妖やモノノ怪として伝わる
この世ならざるモノ達を
封じてきたのだった



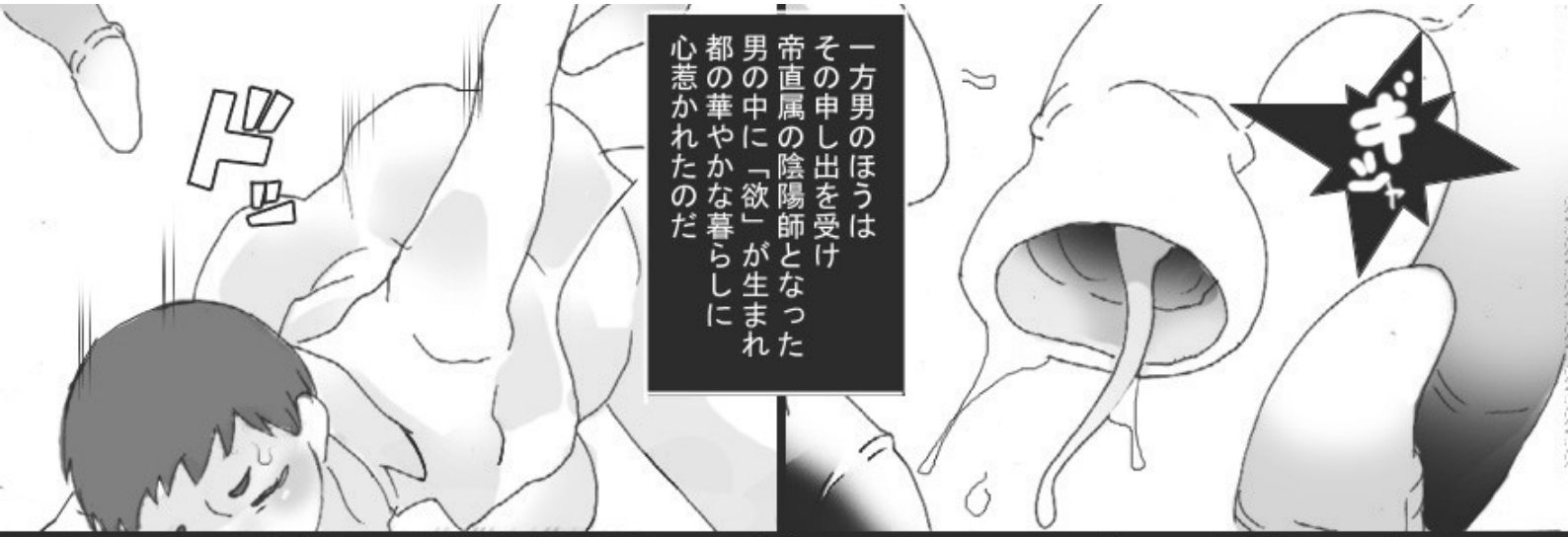
お前が求めているのは
この身体だろう！

そんなある時
二人の力に目をつけた
当時の都の帝は
二人に使いを送り
帝直属の陰陽師として
迎え入れたいと伝える

私が相手になってやる！
私の身体を好きに弄べ！

しかし俗世に
興味ない女の方は
申し出を
その場で断った

帝直属となれば
当時に帝に次ぐ権力を
手に入れるのと同じ



一方男のほうは
その申し出を受け
帝直属の陰陽師となった
男の中に「欲」が生まれ
都の華やかな暮らしに
心惹かれたのだ



帝直属となり権力を思い通りに
降れる様になった男は増長し
欲しいものは手に入れなければ
気がすまない性格へと変貌していった

時には己の力を偽り
虚言を用いて帝を欺き
欲しい物を手に入れたりもした



男の欲望は
ついに同じ力を持つ
女へと向けられる



まさか



ゴク

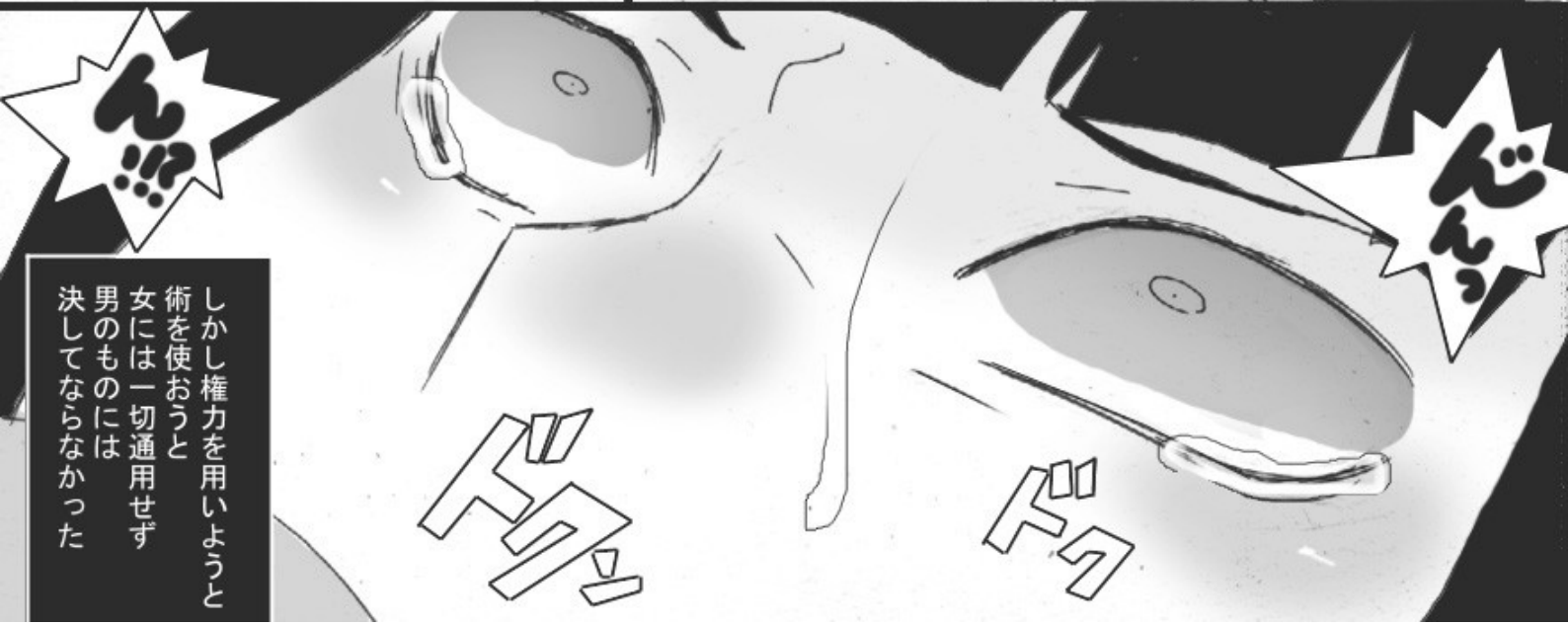
あ・・・ぐっ!
コイツの先端から出る液体が・
私の喉を無理矢理通って
身体の中に染み込んでいく・・・!



まさか

まさか

男は自分と同等の力を持つ
女を手に入れさらに自分の地位を
磐石のものとしようと
画策したのだ



ん!!

ん!!

ドク

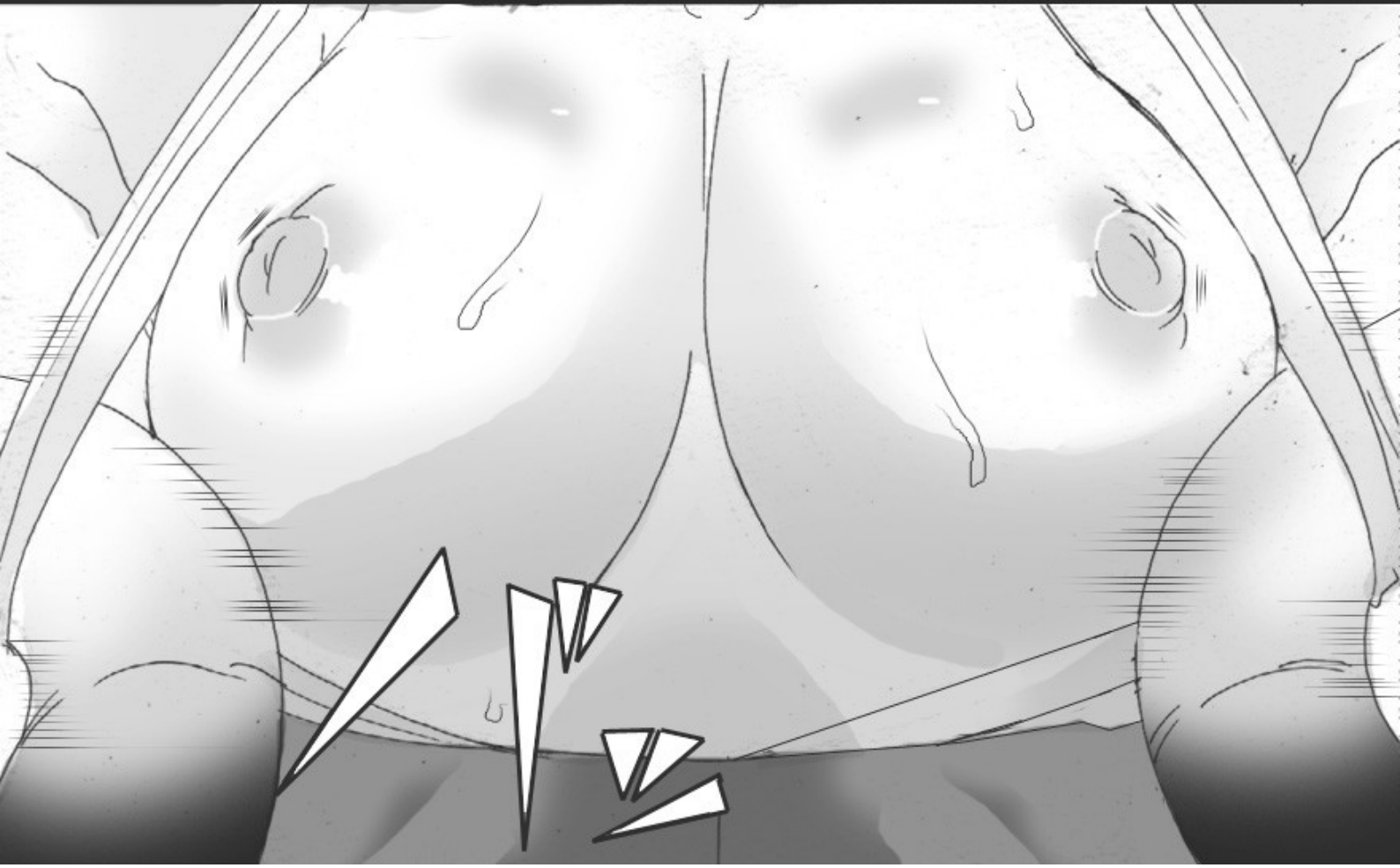
ドク

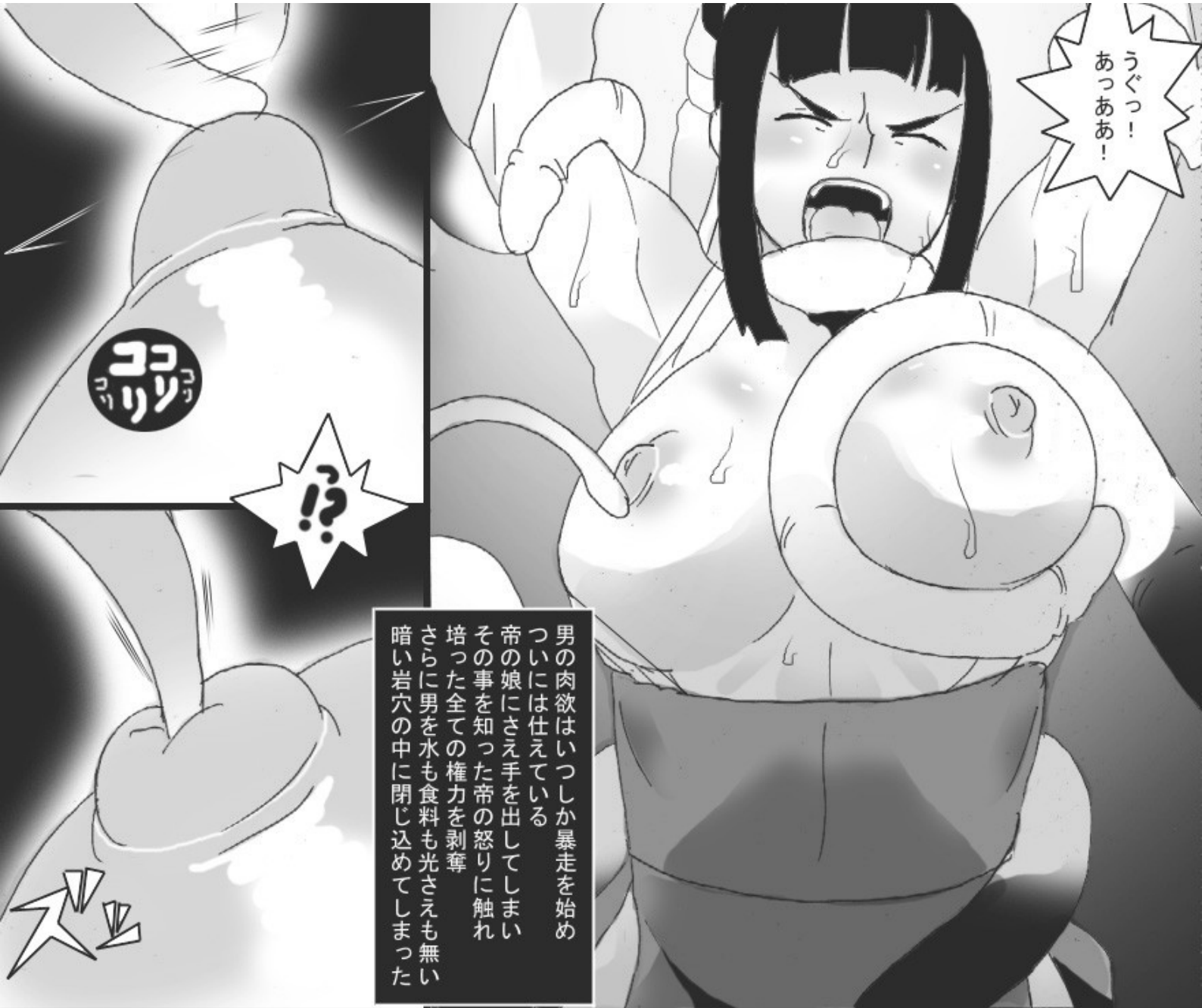
しかし権力を用いようと
術を使おうと
女には一切通用せず
男のものには
決してならなかった

何度取り込もうとしても
自分のものにならない女に
男はいつしか自分の地位の為ではなく
純粹に自分の女にしたいと
思うようになった



男のそれは肉欲となり
手に入らない女を想いながら
都に住む女を時には権力を使い
時には呪術の類を用いて
自らの欲望のままに
手をつけ始める





うぐっ!
あっあああ!

コッ
コッ

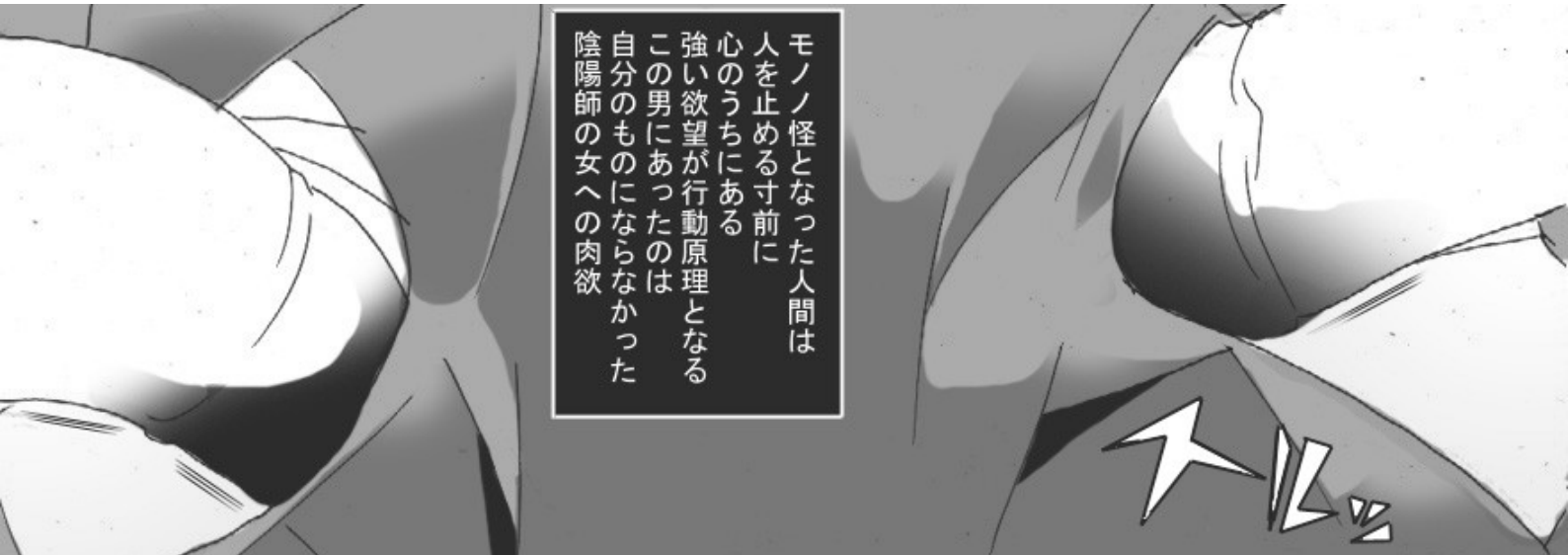
!?

男の肉欲はいつしか暴走を始め
ついには仕えている
帝の娘にさえ手を出してしまい
その事を知った帝の怒りに触れ
培った全ての権力を剥奪
さらに男を水も食料も光さえも無い
暗い岩穴の中に閉じ込めてしまった




あっ!くあああ!
は、はいつて...!
そん・なああ!

普通ならば男は
そのまま餓死するはずだった
しかし男は当代随一の
霊力を持った陰陽師
死ぬしかないこの状況で
男に迷いなど無かった



モノノ怪となった人間は
人を止める寸前に
心のうちにある
強い欲望が行動原理となる
この男にあったのは
自分のものにならなかった
陰陽師の女への肉欲

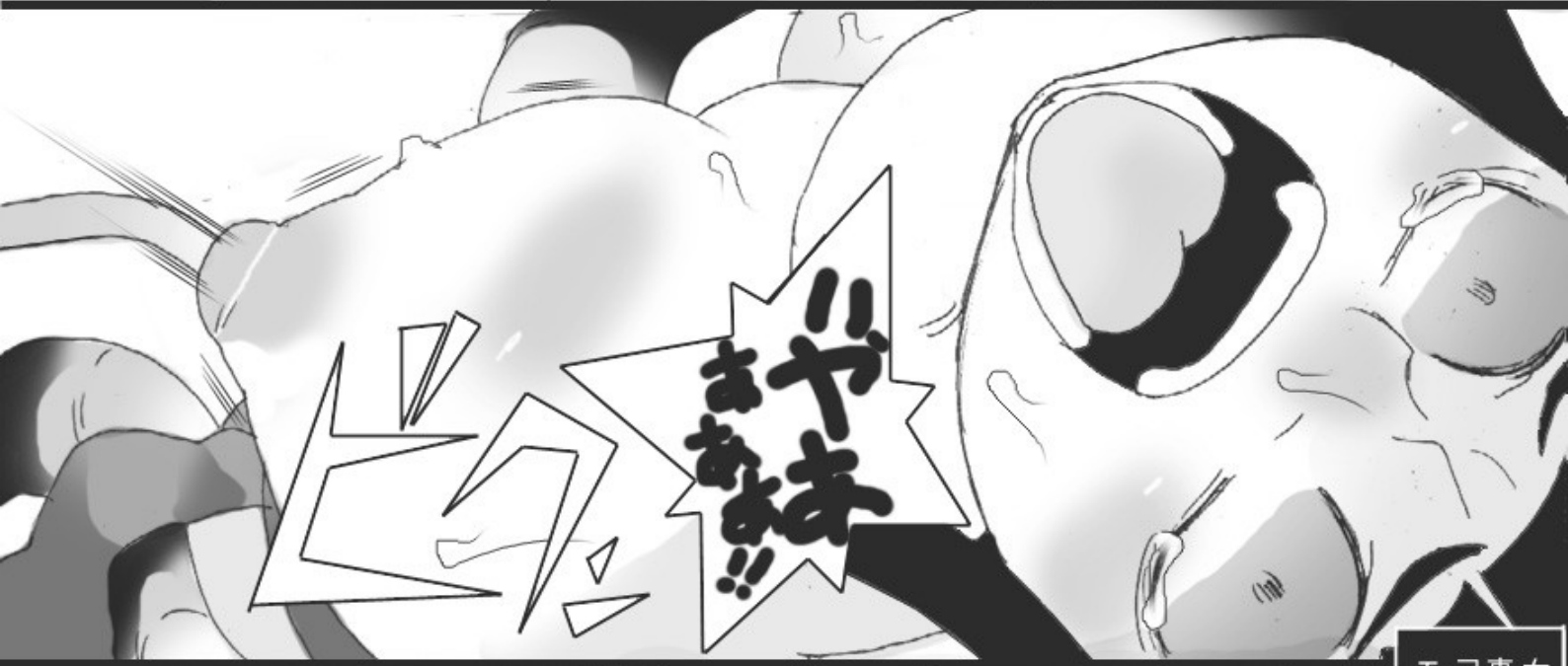
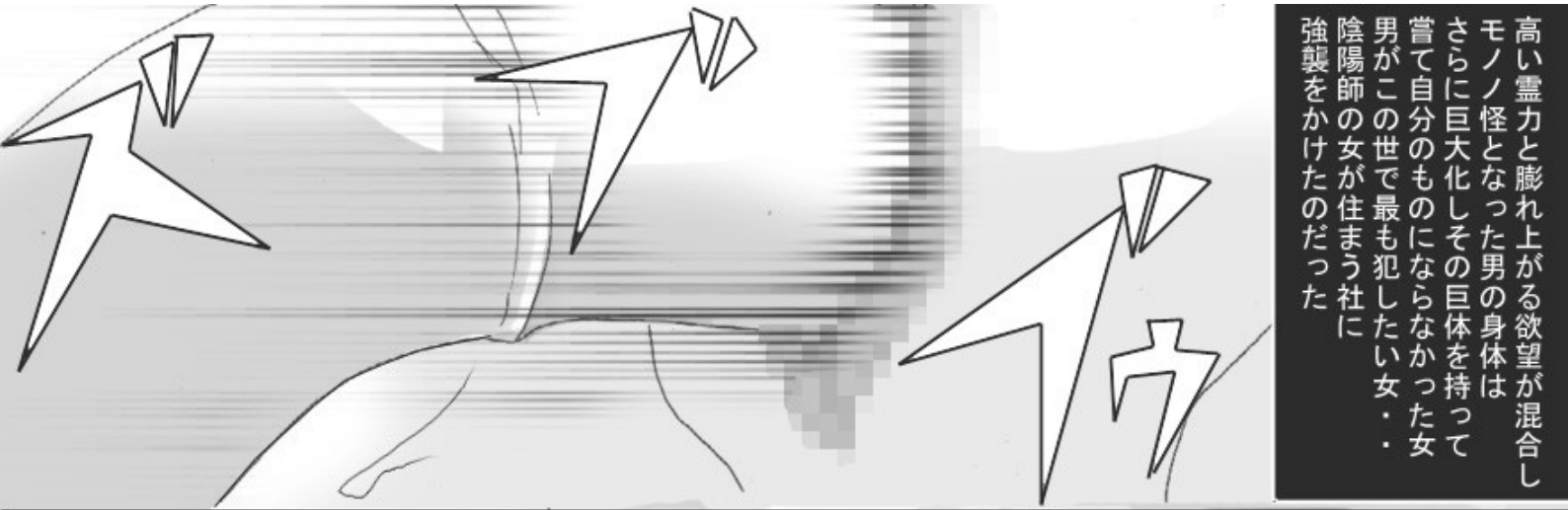


モノノ怪は
都その巨大な力で蹂躞し
都中の若い娘を
その人外の身体を使って
犯し尽くした

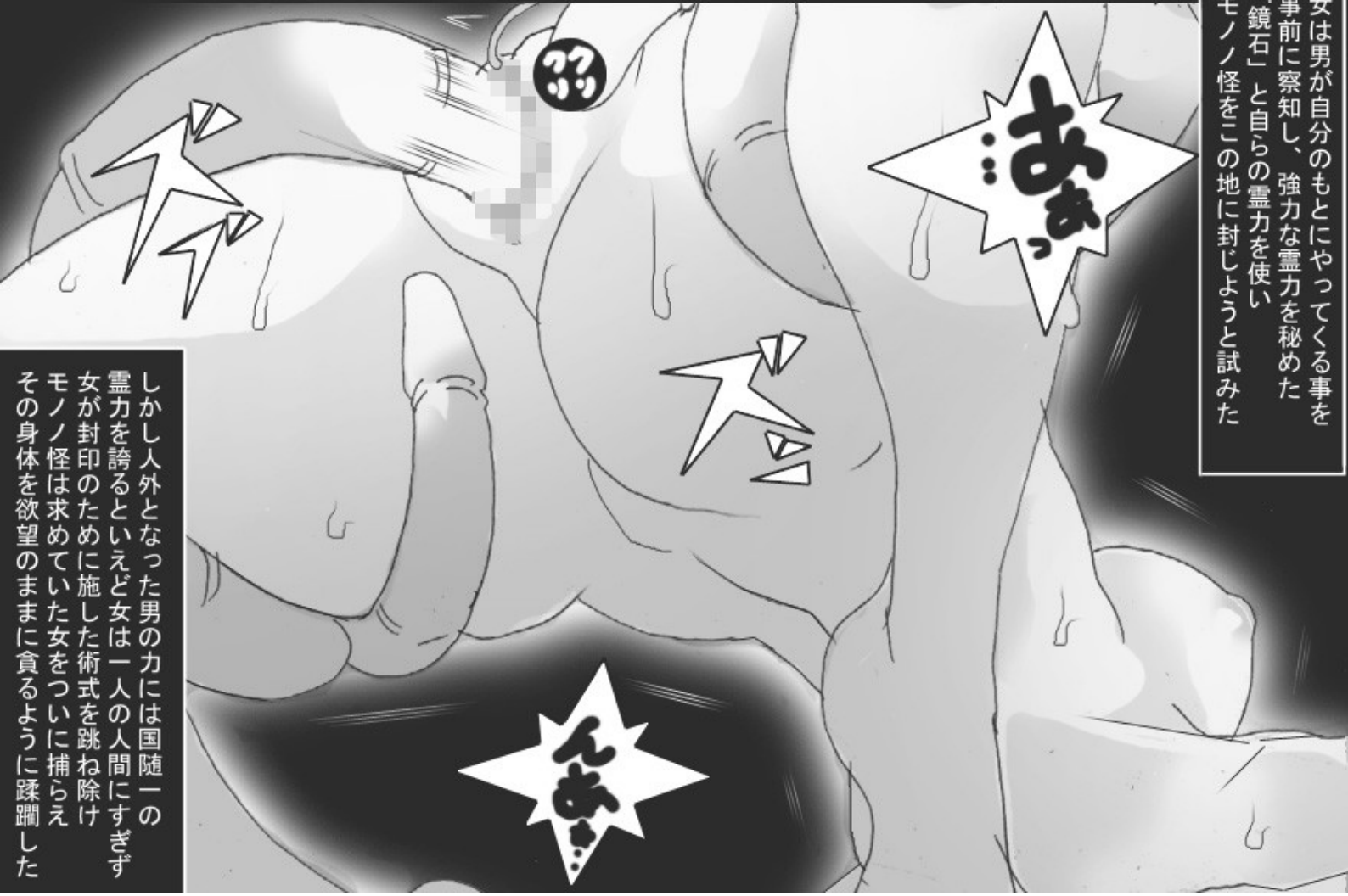
あ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ

高い霊力と膨れ上がる欲望が混合し
モノノ怪となった男の身体は
さらに巨大化しその巨体を持って
嘗て自分のものにならなかつた女
男がこの世で最も犯したい女・
陰陽師の女が住まう社に
強襲をかけたのだった



女は男が自分のもとにやってくる事を
事前に察知し、強力な霊力を秘めた
「鏡石」と自らの霊力を使い
モノノ怪をこの地に封じようと試みた



しかし人外となった男の力には国随一の
霊力を誇るといえど女は一人の人間にすぎず
女が封印のために施した術式を跳ね除け
モノノ怪は求めていた女をついに捕らえ
その身体を欲望のままに貪るように蹂躪した



モノノ怪となった男の肉欲は文字通り底が無い肉欲が依代となっているため何度絶頂しようと満足する事が出来ないのだそれどころかさらに肉欲が肥大化しそれに反応するようにモノノ怪自身も肥大化していく



一方の女は常人以上の力を持つといってもあくまで生身の人間休むまもなく身体を蹂躞され続けどんなに強い精神力を持っていようと心も身体も果てるのは時間の問題だった

しかし陰陽師の女は
自分が果てる前に
このモノノ怪を
退ける術を見出す



私の・・・身体も・・・
乳房も・・・母さんや
あの女の人と同じように
ヤツの玩具・・・に！



あー!!

キョウウ

あー!!



人の内にある霊力とは
人の脳と同じように
ただ使うだけではその力を
全て発揮する事は出来ない

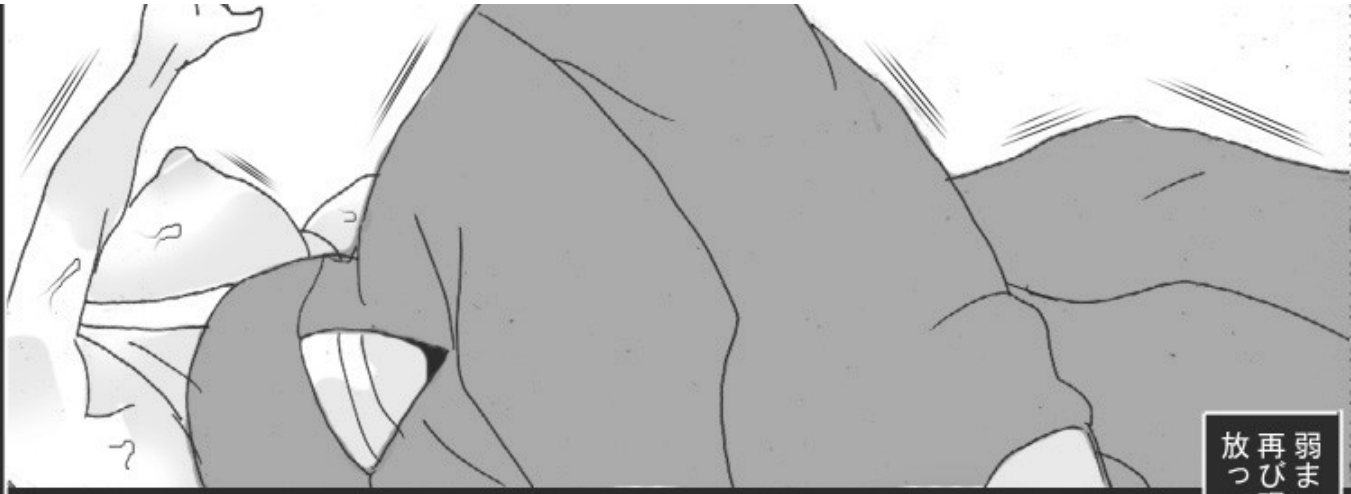
彼女はそこでモノノ怪に吸われている
自分の唾液、愛液、乳腺を弄られ
無理矢理搾り出された
母乳に自分の体内を巡る
霊力が混ざっているのに気づく
さらにモノノ怪にそれらを十分に
吸われた事に着眼し

急急如律令！

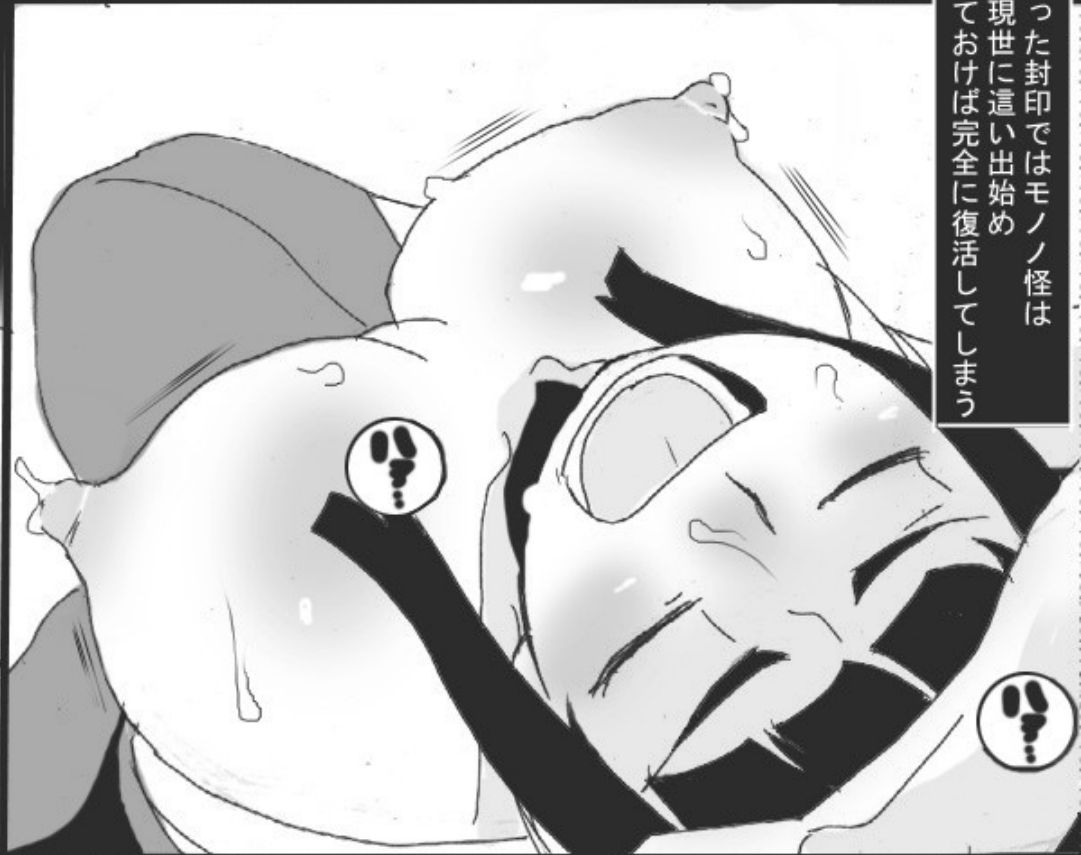
吸われた己の霊力を
自分の力でモノノ怪の内部から
爆発させる事によって
当初用意した術式以上の
威力を一時的に発揮したのだ

その威力により一時的に
弱体化したモノノ怪を
彼女は最後の力を振り絞り
鏡石の霊力を使いこの地に
封印する事に成功した

弱まった封印ではモノノ怪は
再び現世に這い出始め
放っておけば完全に復活してしまう



しかし鏡石の力を用いても
モノノ怪を完全に封印することは出来ず
封じ続けておける期間は長くて五年
鏡石の霊力を回復させるために
封印の力を一端同じ年月
弱めなくてはならなかった



ビュク

ズン

自分が原因の一端であると
感じた陰陽師の女は
自らの身体に自分の血筋からは
女しか生まれぬ呪いをかけ
弱まった封印の期間
自らの身体をもってモノノ怪を
払う事を宿命付けた・・・
それが篝一族である



母・・・さん

